

PMI News

創刊号

January 1, 2005

編集責任者 野尻賢司

有限会社パフォーマンス・マネジメント研究所

651-1232 神戸市北区松が枝町 3-1-72

Email: nojirijn@iijmio-mail.jp

Tel/Fax: 078-581-2318

Published by Performance Management Institute for exchanging ideas and methods for HR and Communication

新年おめでとうございます

みなさん、こんにちは。野尻賢司です。多くの人にご無沙汰です。2003年末に17年間勤務しました日本イーライリリー(株)を定年退職、そして昨年1月に起業し、タイトルにあるパフォーマンス・マネジメント研究所を設立しました。人事(人事戦略、パフォーマンスマネジメント、リーダーシップ開発、給与制度など)、社員コミュニケーション、異文化コミュニケーション、ビジネス文章教育を中心としたコンサルティングです。事業が少しは軌道に乗ってからご挨拶を、と思っていますと年が明けてしまいました。

幸いなことに、国内および外資の優良企業からお仕事をいただくことができました。アメリカ企業で勤務し(インディアナポリス本社人事部での勤務を含む)、素晴らしいリーダーや友人との仕事・交流を通じて経験し、学んだことを正しく紹介したく思っています。また、10年以上にわたり日立造船時代に担当しておりました広報業務の経験も生かしてゆきたく思っています。



これからは、各々の分野でもっと積極的に発言をしていく予定です。その一環として、このPMI Newsを不定期に出すこととしました。このNewsに対し、皆さんからご意見がいただければこの上ない喜びです。

Work Should Be Woooooow!

これは、私が好んで読んでいるアメリカのコンサルタント、トム・ピーターズが使う表現です。社員が会社に来て「この職場で働いて、この仕事についてよかった、素晴らしい。」と感じられるようにすることが会社の責任であり、上司の責任です。しかしながら、このように感じている社員はどれほどいるのでしょうか？人生を振り返り、自分がいた会社でのいろいろな経験を見ますと、もちろん担当する仕事そのものがそれなりの深みを持ち、面白いと感じられることが大事ですが、職場の風土そのものが、社員のモラルに多大に影響を与えることも事実です。一人の課長、部長の「ちょっとした言動」で多くの社員が幸せに感じられるのに、その課長や部長がそれをしないばかりにその

職場の社員が暗い顔をし、「ああ、会社へ行くの、やだなあ」と半分、鬱になっているというケースが本当に多いですね。その上司も「ああ、疲れた、早く定年が来ないかなあ」と家で愚痴を言っているのでしょうか。

不幸なことに、人間には相性の合う、合わないというどうしようもない問題がありますね。でも、その相性の不一致を否定的に考えるのではなく、チームの多様性として肯定的に考えることが必要なのです。まず管理職が後者の立場に立ち、その方向に向けてリーダーシップを発揮すべきなのです。相性が合わないことに由来する感情的対立をそのまま前面に打ち出す人は結構多いものです。いっぽうで、相性の違いによる葛藤から目をそらし、観念的に「チームメンバーは仲良くすべきです」と繰り返すだけの人も多いです。後者は念仏を唱えるようなもの。時々町で見かける「世界が平和になりますように！」という標語とまったく同じです。管理職がこの相性の違いから目をそらすことなく、チームメンバーに、タイプの異なる相手の言動の背景にある価値観を理解させ、具体的な接し方を学習させることにより、かなり葛藤を減じることができ、よき人間関係、チームが作れるのです。今後、このPMI Newsでこれらのテーマについて論じ、Work Should Be Woooooow!を実現する方法を皆さんと一緒に考えて行くつもりです。

注：私の友人のケン・ブルーゾーは南カリフォルニア大学で、友人の故マイケル・ドライバーと人間の意思決定スタイルについて研究し、人間には4タイプの意思決定スタイルがあることに気づきました。その後、ロスアンゼルスでコンサルティング会社、デザイン・ダイナミックス社を設立し、この意思決定スタイルを使って、相性の違いを乗り越えた強力なチームづくりを提唱しています。近い将来、この意思決定スタイル理論の紹介をしましょう。

編 | 集 | 後 | 記

起業して最初の年であった2004年は、あっという間に過ぎてゆきました。起業に際し、法務局、税務署、社会保険事務所、など関係官庁のお世話になりましたが、窓口の人たちの親切な対応には驚きました。いままで、「お役所仕事」といえば、不親切の代名詞のように理解していましたが、現実はその逆でした。起業は司法書士の手を借りずに自前で実施。その後押ししてくれたのは小松俊明さんでした。会社の決算も自前で、これは元会社の同僚が手伝ってくれました。また誕生間もないPMIと契約を結んでいただいた会社の皆さんのご好意に心から感謝です。